

尚徳寮

令和4年5月10日

鳥取大学附属中学校

NO. 1

令和4年度入学式

新入生 142 名を迎え、鳥取大学附属中学校の令和 4 年度が生徒数 414 名でスタートしました。
入学式式辞を掲載します。

若葉が燃え、花が咲き、鳥が歌う。生輝く季節の到来です。すがすがしいこのような日に、第七十七回鳥取大学附属中学校入学式を迎えることができました。

142 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとう！皆さんは今日から附属中学校の伝統を築き上げる一員です。学校は、生徒同士が学びあい互いに成長する場所です。141 名の大切な仲間ができました。

近年よく耳にする持続可能な開発目標 SDGS、聞いたところありますか？ SDGS の基本精神は、「誰一人取り残さない」です。「142 名、誰一人取り残さない」この目標を目指して仲間と共に進みましょう。

附属中学校は、友達と一緒に考え、学びあう大切な場所です。この意味をしっかりと考えてください。

新型コロナウイルスやウクライナへの武力紛争にみられるように、生きていく中で「正解がひとつと限らない課題」にぶつかります。そのとき、私たちには、これまでの「知識」・「技能」・「経験」など、ありとあらゆるものを使って、周りの人と協力しながら、課題に立ち向かう力が求められます。附属中学校では、このような力のことを「やりくりする力」と呼んでいます。君たちが卒業する時に、しっかりと身につけていただきたい力です。授業中はもちろんのこと、学校生活のあらゆる場面で、生徒の皆さんに「やりくりすること」が求められます。指示待ち人間から脱却しましょう。頭を働かせ、仲間と



コミュニケーションをとりながら行動に移して下さい。

学校生活を通して、いろいろな考え方やアプローチの仕方があることを友達から学ぶことでしょう。多様な考えや個性が出会い、互いにわかり合おうと努力する中で、新たなアイディアに行きつきます。自分一人では、決して思いつかなかったことに気づきます。このような経験を重ね、互いにリスペクトする心が芽生え、多様性（ダイバーシティ）がいかに重要であるかを深く理解します。君たちは今、期待と不安とで胸がいっぱいでしょう。大丈夫です。先輩たちの姿を見な



がら、一日一日の学校生活を大切に過ごして下さい。

さて、ご参列の保護者の皆様、本日はまことにおめでとうございます。満開の桜も、お子様方の門出を祝福しております。

私たち教職員は生徒の皆さんの安心・安全を第一に考え、子供たちの成長のために全力で支えてまいります。これから心身共に大きく成長する大切な3年間です。たくましく、しなやかに成長するには、学校と保護者との協力が不可欠です。子供たちを共に支えてまいりましょう。最後になりますが、大学附属といった本校の特色を十分にご理解していただき、ご協力を賜りますようお願いいたしまして、私の式辞といたします。

令和四年四月八日 鳥取大学附属中学校 校長 小玉芳敬

「feel 鳥取」 郷土を探求する修学旅行

4月20～22日、「feel 鳥取」をテーマに3年生が修学旅行を行いました。鳥取の特色ある観光地を巡ったり、「先輩に学ぶ」講演会、「鳥取探求」講演会、鳥の劇場での鑑賞と体験もありました。郷土を探求する修学旅行となりました。



鳥取砂丘でも探求



附中卒業生岡島礼奈さんの講演会



ディスタンスでも楽しい食事



ここは中国？ではなく湯梨浜町、燕趙園です



山陰松島は快晴でした



足立美術館での絵になる一枚



水しぶきも浴びました



教育懇話会執行委員の皆さんを紹介します。



1年間よろしく願っています。

役職(専門部)	氏名(敬称略)
会長	山下 浩史
副会長	池田 光之
副会長	本多 千亜希
監査	尾崎 佳三
監査	保木本 淳
幹事	田中 宏典
幹事	浅井 美奈子
会計	山中 達郎
生活部長	益川 麻由
文化部長	松本 可奈子
研修部長	松浦 聡子

6月1日は開学記念日

6月1日(水)は鳥取大学の開学記念日です。全学で開学の意義を考える日としています。現在本校は、ここ湖山の地にありますが、昭和60年までは「尚徳の地」として親しまれた鳥取県庁前にありました。その「尚徳」とはどこからきたのか、それが鳥取大学の前身である鳥取藩の藩校の名に由来するものです。

藩校「尚徳館」は徳を尊び人としての生き方を学ぶ、そのような場所であったそうです。「文武併進」は江戸時代から受け継がれてきた校訓です。人としていかに生きるか、これは現代の私たちも問い続けるべきことです。